

# 秋田駒ヶ岳

## 概況

火山活動に変化はなく静穏に経過しました。

### ・地震活動（図2）

火山性地震は、少ない状態が続いています。  
火山性微動は観測されませんでした。

### ・熱活動（図3～4、表1）

7月21日、8月5日に現地観測を実施しました。  
その結果、噴気地熱地帯の状況に変化はなく、引き続き静穏な状況であることが確認されました。



図1 秋田駒ヶ岳観測点配置図

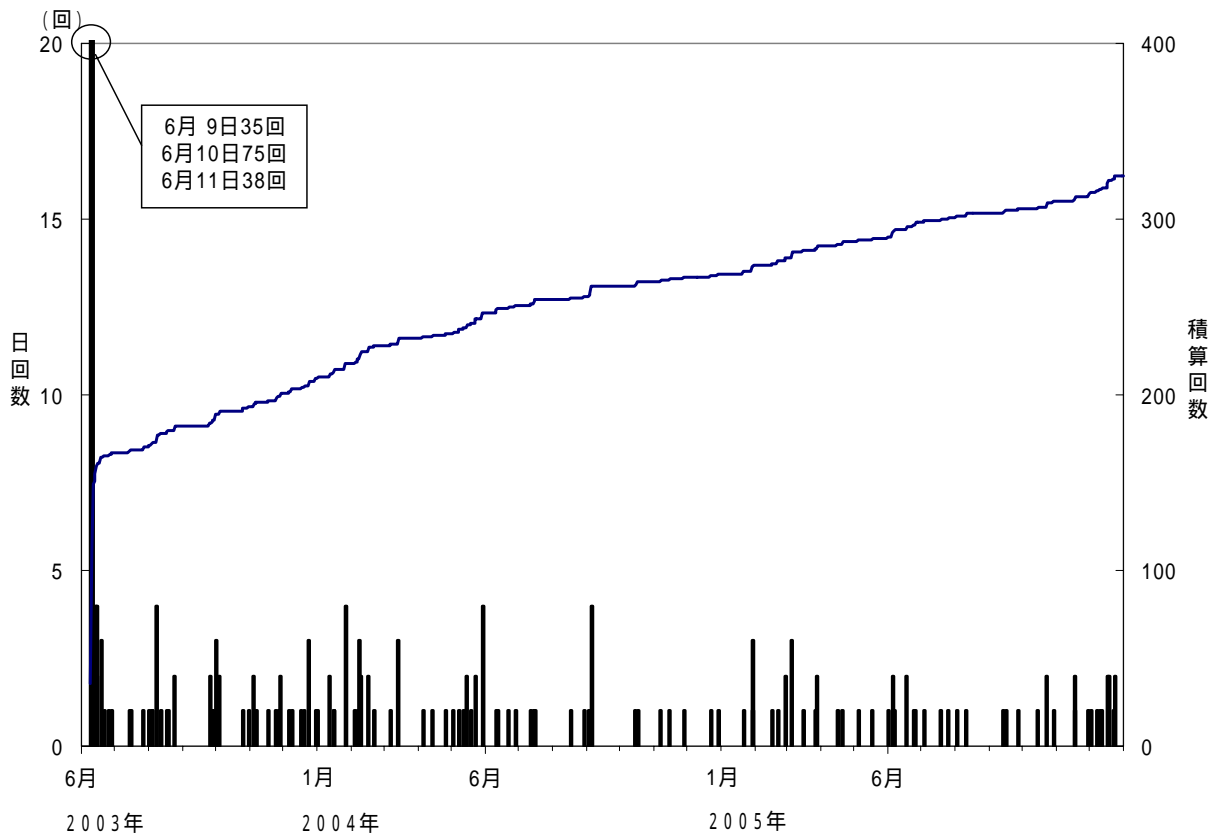


図2 秋田駒ヶ岳日別地震回数（2003年6月9日～2005年12月）

2003年6月9日～7月31日、2004年5月1日～5月31日、8月11日以降は、秋田駒ヶ岳(東北大)の地震計による  
2003年8月1日～2004年4月30日、2004年6月1日～8月11日の期間は水沢（気象庁）の地震計による

資料は気象庁のデータその他、国土交通省東北地方整備局、東北大学のデータを利用して作成。

**現地観測の結果** (7月21日、8月5日実施)

女岳山頂北部を中心に噴気・地中温度観測(7月21日)、赤外熱映像装置<sup>1</sup>による観測(8月5日)を実施しました。

女岳山頂北部の噴気地熱地帯は、1970年の噴火前から確認されている場所で、近年も登山者等から噴気に関する情報が寄せられます。

今回実施した赤外熱映像解析結果と昨年9月の結果を比較したところ、噴気地熱地帯の領域に拡大縮小の変化は見られませんでした。また、噴気温度・火山ガス成分の観測結果にも変化はありませんでした。

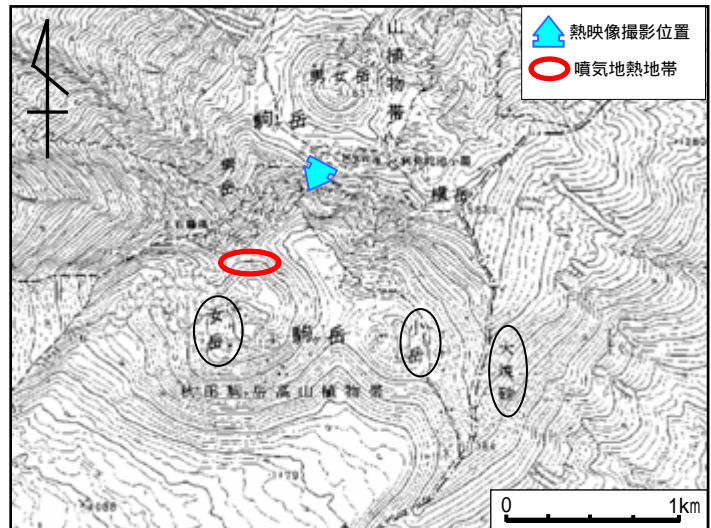


図3 秋田駒ヶ岳の地形図と熱映像撮影ポイント

1 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

表1 各観測点の観測結果

現地観測結果の比較(女岳山頂北部)				
	平成17年7月	平成16年9月	平成15年6月	平成7年9月
天気・気温	雨・15	曇・13	晴・18	雨・11
噴気温度	70	72	86	73
火山ガス	H <sub>2</sub> S -	H <sub>2</sub> S -	H <sub>2</sub> S -	H <sub>2</sub> S -
	SO <sub>2</sub> -	SO <sub>2</sub> -	SO <sub>2</sub> -	SO <sub>2</sub> -
	(ガス警報機による観測)	(ガス警報機による観測)	CO <sub>2</sub> 4.0%	CO <sub>2</sub> 3.6%

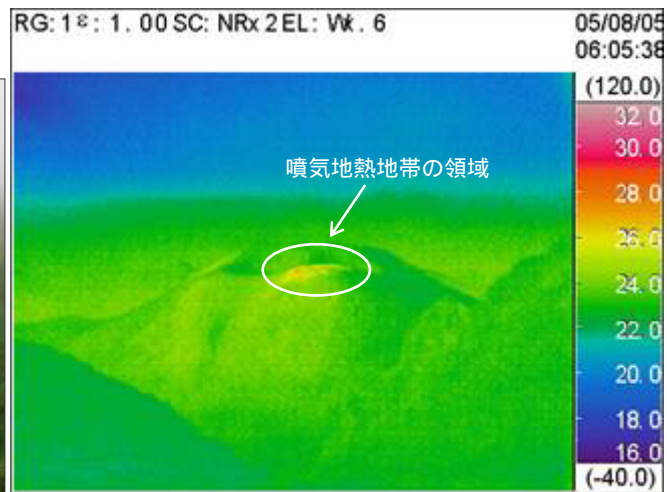


図4 女岳山頂北部噴気地熱地帯の可視画像(左)と赤外熱映像画像(右)  
(男岳分岐より撮影 晴・18 放射率:1.00 ノーマルズ)